

広報かるまい

平成27年（2015年）

特別号

軽米町町村合併 60 周年・音更町姉妹締結 30 周年

過去・現在、そして未来へ
紡ぐ歴史、つながる絆

今号の主な内容

- 軽米町長・音更町長あいさつ …… 2～3
- 軽米町誕生から50年までの動き …… 4
- 軽米町過去10年を振り返る、音更町との
30年の主なあゆみ …… 5～7



軽米町町村合併60周年・ 軽米町姉妹締結30周年を祝して

音更町長
寺山 憲二

ごあいさつ

軽米町町村合併60周年

音更町姉妹締結30周年を迎えて

ごあいさつ



軽米町長
山本 賢一

昭和30年1月1日の1町2力村の合併から60年。町民の皆様は郷土を愛する熱い情熱とたゆまぬ努力、そして関係する皆様のご支援とご尽力により、軽米町は着実に成長を遂げてまいりました。長年にわたり町勢発展のためにご尽力くださいました諸先輩方、町民の皆様は心から敬意と感謝の意を表するものであります。

町村合併から30周年を迎えた昭和60年には、十勝開発の先駆者として功を収めた、当町出身の大川宇八郎翁が縁で、北海道音更町との姉妹町締結を行い、本年度30周年を迎えました。姉妹町締結30周年を記念して、音更町産の小麦と軽米町産のホップを使用した記念ビールの製造に加え、町民交流ツアーなどの記念事業を実施し、参加した町民の方々は、広大な大地に広がる美しい景色と音更町の皆様の温かいおもてなしに感動した様子で、改めて友好の絆を実感したところであります。さて、近年の自治体を取り

巻く状況は、急速に進む少子高齢化、情報化社会の進展など大きく変化しており、多様化する地域課題を解決し、快適で住みよい地域づくりを推進していくためには、町民と行政が同じ視点に立ち、一体となつて取り組んでいくことが重要であります。

町では、今年度新たに、町の将来を展望した人口ビジョンや5力年の具体的な施策などをまとめた「軽米町総合戦略」を策定するとともに、町民との協働のまちづくりを推進するため、「軽米町百人委員会」を立ち上げ、町民の皆様と手を携えながら、自律的で持続的なまちづくりを推進していくこととしております。また、引き続き子育て環境対策と雇用対策に力を入れ、子育て世代の定住化促進に取り組んでまいります。子育て環境対策につきましては、給食費の助成や保育料の軽減、高校生までの医療費無料化、高校生への通学支援などにより、「子育て支援日本一」のまちを目指します。雇用対策

につきましては、地域の特性を活かした食産業に係る企業誘致の推進や新規求職者等支援制度等の活用、雇用の場の確保と安定した長期雇用を目指します。

さらに、バイオマスや太陽光等の再生可能エネルギー施設の導入や、農業の6次産業化による地域産業の推進等により、交流人口の拡大、町の活性化に取り組んでまいります。

この町村合併60周年を節目として、歴史と伝統のある軽米町のさらなる発展のために、町の将来像である「豊かな自然の恵みと彩り、歴史と食文化の薫るにぎわいのまち」の創造に向け全力で取り組んでまいりますので、町民の皆様におかれましては、一人ひとりがまちづくりの主役となり、共に活力ある軽米町をつくり上げていただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、町民の皆様のご多幸を祈念し、ごあいさつとさせていただきます。

軽米町町村合併60周年という節目を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

軽米町は岩手県の最北端に位置し、雪谷川が流れる丘陵地帯に、木炭や雑穀など多くの「日本一」を誇る大地の恵み豊かな地であります。

まちの歴史は古く、縄文時代草創期までさかのぼり、春のチューリップや初夏の芝桜など彩り豊かな四季の移ろいと、人情に厚い「日本のふるさとの原風景」がこの地には残されております。

その歴史ある軽米町と音更町は姉妹締結をして30年という節目の年を迎えました。

両町の深い縁をたどり、明治13年に軽米町出身の大川宇八郎翁が遙か海を渡り、未開の地であった本町に最初の和人として入植・定住したことに始まります。現在の音更町は、宇八郎翁をはじめ先人の不断の努力と不屈の精神のうえに築き上げられたまちであり、誠に感謝の念に耐えません。

また、昭和60年10月31日に姉妹締結をいたしました、その縁をたぐり寄せていただ

いた当時の内澤町長をはじめ、関係者の皆さまのご尽力に、心から敬意を表する次第でございます。

以来30年に渡り、スポーツや文化活動、小学校児童による相互訪問など幅広い分野での交流が続いております。姉妹締結30周年を記念して本年8月には、山本町長はじめ26名の町民の皆様が音更町を訪れ、両町町民が親睦を図り、絆をより深めることができたのではないかと存じております。また、記念事業の一環として両町の農産物である軽米産のホップと音更町産の小麦を活用した「姉妹締結30周年記念ビール」を友好の証として製造しました。

これまで交流などを通じて築き上げてきた信頼や友情を次の世代へと引き継ぎ、姉妹締結30周年という記念すべき年を契機として、両町の絆がより一層強まることを切望しております。

最後になりますが、軽米町の限らない繁栄と皆様の御多幸、御健勝を心からお祈り申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。



完成した笹渡簡易水道



星降る森のカーニバル

- ・町教育委員会が各学区にス
- 5月9日
- ・町教育委員会が各学区にス
- 平成22年
- 3月31日
- ・観音林小学校、山内小学校、
- 平成23年
- 3月11日
- ・東日本大震災が発生。町では震度5弱を観測。
- 4月
- ・図書館情報システムが運用
- 6月
- ・かるまいテレビが放送開始。
- 5月10日
- ・軽米高校で学校給食始まる。
- ・町の食の団体と音更町の職員らが野田村で炊き出し。
- 開始。
- ・晴高小学校が閉校。
- 4月1日
- ・晴山小学校開校。6日に開校式。
- 7月27日
- ・町の新たなイメージキャラクターが決定。後にカルルンと命名。
- 8月27日
- ・第1回中学生英語暗唱・弁論大会が開催される。
- 平成21年
- 10月1日
- ・特別養護老人ホームいちい荘を町社会福祉協議会に移管。
- 平成20年
- 3月31日
- ・『軽米葉たばこ取扱所（門前）を改修し、おかりや元気館が開館。
- 8月5日
- ・町内初の認知症高齢者グループホーム『グループホーム花の里かるまい』の開所式が行われる。
- 平成19年
- 3月25日
- ・米田小学校閉校。128年の歴史に幕。
- 6月27日
- ・北奥羽16市町村が災害時応援協定を締結。
- 平成18年
- 3月31日
- ・『軽米耕作鈔』と『遺言』が町有形文化財に指定。
- 3月31日
- ・小玉川小学校が閉校。126年の歴史に幕。
- 4月4日
- ・旧軽米葉たばこ取扱所（門前）を改修し、おかりや元気館が開館。
- 8月5日
- ・町内初の認知症高齢者グループホーム『グループホーム花の里かるまい』の開所式が行われる。
- 平成17年
- 12月24日
- ・増子内農村振興会館が完成。
- 12月24日
- ・雪谷川ダムフォリストパーク・軽米で『星降る森のカーニバル』を開催。17組のカップルが成立。
- 8月10日
- ・クールガードを設置。
- 8月10日
- ・笹渡地区簡易水道が試験給水を開始。10月1日から本格給水を開始。
- 8月19日
- ・海外から東京外国語大学に留学中の学生10人が、町内9世帯にホームステイ。
- 9月3日
- ・雪谷川ダムフォリストパーク・軽米で『星降る森のカーニバル』を開催。17組のカップルが成立。
- 12月24日
- ・増子内農村振興会館が完成。
- 平成16年
- 12月24日
- ・増子内農村振興会館が完成。
- 平成15年
- 2月2日
- ・山本賢一町長が初当選。
- 平成16年
- 9月
- ・五輪メダリストの伊調千春、姉妹が来町し講演。
- 10月20日
- ・約188億円を投入した雪谷川の災害復旧事業がすべての工事を完了。
- 平成11年
- 10月28日
- ・一晚の総雨量が230ミリを超え、200年に一度といわれる豪雨災害が発生。1252世帯に避難勧告が発令された。被害総額は約265億円。
- 平成15年
- 2月2日
- ・山本賢一町長が初当選。
- 平成16年
- 9月
- ・五輪メダリストの伊調千春、姉妹が来町し講演。
- 10月20日
- ・約188億円を投入した雪谷川の災害復旧事業がすべての工事を完了。
- 平成11年
- 10月28日
- ・一晚の総雨量が230ミリを超え、200年に一度といわれる豪雨災害が発生。1252世帯に避難勧告が発令された。被害総額は約265億円。
- 平成15年
- 2月2日
- ・山本賢一町長が初当選。
- 平成16年
- 9月
- ・五輪メダリストの伊調千春、姉妹が来町し講演。
- 10月20日
- ・約188億円を投入した雪谷川の災害復旧事業がすべての工事を完了。



完成した晴山小学校の校舎
平屋建ての校舎は円形のデザインで、各学年の教室からはグラウンド全体が見渡せる

町村合併51年〜60年 過去10年を振り返る



合併記念祝賀旗行列（昭和30年）

- ・合併後初の町長選で中村省三氏が当選。
- 昭和31年4月
- ・軽米地区簡易水道が完成し、給水を開始。
- 昭和32年1月1日
- ・広報かるまい創刊。
- 昭和34年1月23日
- ・町長選で兼田徳松氏が当選。
- 3月1日
- ・軽米振興、小軽米、円子の3農業協同組合が合併し軽米町農業協同組合が設立される。
- 昭和38年1月11日
- ・町長選で元町長の中村省三氏が当選。
- 昭和42年11月
- ・軽米局の電話がダイヤル式になる。
- 昭和50年1月6日
- ・二戸地区広域消防軽米分署に救急車が配置される。
- 昭和53年3月11日
- ・町の花鳥木と町民憲章制定。
- 12月24日
- ・町長選で内澤昭治氏当選。
- 昭和59年10月10日
- ・第14回県民総参加スポーツ中央大会が開催される。
- 昭和61年11月27日
- ・八戸自動車道が開通。
- 昭和62年4月1日
- ・「生涯学習の町」を宣言。
- 平成2年5月2日
- ・雪谷川ダムフォリストパーク・軽米が開園。
- 12月25日
- ・町長選で平正一氏が当選。
- 平成8年6月2日
- ・町長選で平澄芳氏が当選。
- 平成10年
- ・ハートフル・スポーツランド多目的広場が完成。前年完成の野球場、パークゴルフ場と併せて二期工事がすべて完了。
- 4月21日
- ・向川原地区で142ヘクタールを焼く山林火災が発生。
- 平成11年
- 10月28日
- ・一晚の総雨量が230ミリを超え、200年に一度といわれる豪雨災害が発生。1252世帯に避難勧告が発令された。被害総額は約265億円。
- 平成15年
- 2月2日
- ・山本賢一町長が初当選。
- 平成16年
- 9月
- ・五輪メダリストの伊調千春、姉妹が来町し講演。
- 10月20日
- ・約188億円を投入した雪谷川の災害復旧事業がすべての工事を完了。



水害時の大町の様子（平成11年）



広報かるまい第1号（昭和32年）
当時の広報誌はA3判より一回り大きいサイズで4ページだった。

- 平成11年10月28日
- ・一晚の総雨量が230ミリを超え、200年に一度といわれる豪雨災害が発生。1252世帯に避難勧告が発令された。被害総額は約265億円。
- 平成15年
- 2月2日
- ・山本賢一町長が初当選。
- 平成16年
- 9月
- ・五輪メダリストの伊調千春、姉妹が来町し講演。
- 10月20日
- ・約188億円を投入した雪谷川の災害復旧事業がすべての工事を完了。



姉妹町音更町との交流 30年の主なあゆみ

昭和60年10月31日
・北海道音更町と姉妹締結。
式典には、金子尚一町長、
高瀬廣志議長など音更町か
ら44人が出席。



姉妹締結式

昭和61年5月10日
・第3回グリーンデーで、エ
ゾと大自然のロマンの森に
音更町から贈られたシラカ
バ20本などを植樹し、音更
町通りと命名。
6月7日
・音更町文化センターの落成
に軽米町の町の木「イチイ」
を寄贈。イチイの名前を彫
った石碑が、音更町に寄贈
された。



第1回目の小学生視察研修団

6月28日
・音更町太陽クラブが来町し、
町内のチームとスポーツ交
流したほか、両町の産業ま
つりで特産品を交流するこ
とを調印。
7月23日
・音更町の郷土史研究家久保
吉春さんが来町し「音更町
の先駆者・大川宇八郎翁を
語る」と題して講演。
7月29日
・音更町の小学生37人が町内
小学生の各家庭に一泊して
交流。現在まで続く小学生
の姉妹町交流がスタート。
昭和62年10月26日

平成9年10月26日
・ハートフル・スポーツラン
ドパークゴルフ場の落成記
念大会に音更町からの参加
者を含めた111人が参加。
平成11年10月28日
・軽米町を豪雨災害が襲う。
11月21日
・音更町からジャガイモなど

・音更町文化協会が来町し、
町文化協会と俳句や詩吟、
舞踊などを通じて交流。
平成元年8月2日
・音更少年グリーンクラブが
来町し、増子内小森林愛護
少年団とキャンプで交流。
平成2年6月
・広報かるまい内に「おとふ
け町便り」を掲載。広報誌
面を通じて交流。
6月16日
・姉妹締結5周年を記念し音
更町訪問ツアー。およそ70
人が訪町。
9月14日
・音更町の開基90年式典。前
日13日に大川宇八郎翁顕彰
碑の除幕式が行われる。
平成6年8月20日
・音更町の1万人踊りに併せ
て軽米町民およそ90人が訪
町。



びっくり市で音更町のジャガイモを販売

の支援物資が贈られ、青空
びっくり市が開催される。
平成12年10月15日
・音更町の開町100周年の
記念式典が開催される。
平成13年5月12日
・両町パークゴルフ協会が協



東日本大震災の被害を受けた野田村で両町が共同で炊き出しを行う。両町の絆の強さは他市町村でも示された（平成23年4月26日）

会姉妹締結。
平成17年8月26日
・姉妹締結20周年記念音更町
訪問ツアー開催。町民33人
が参加し、音更町にて記念
植樹などを行う。
平成23年8月8日
・音更町寺山町長、小野議長
が東日本大震災関連で軽米
町、大槌町を表敬訪問。
平成27年8月24日～28日
・姉妹町締結30周年記念音更
町訪問ツアーに20人が参加。
9月10日
・町産ホップと音更町産小麦
使用の記念ビールを発売。

9月28日
・町商工会が創立50周年を迎
え、記念式典が開催される。
3月1日
・こぶし福祉作業所が『就労
継続支援B型事業所 こぶ
し』として活動を開始。
6月15日
・盛岡～八戸間を運行する高
速バス八盛号が軽米インタ
ー停留所を新設し運行開始。
平成25年
3月17日
・県が建設を進めていた大清水
地区活性化センターが完
成し、落成祝賀会が開催さ
れる。



作業に励む『就労継続支援B型事業所 こぶし』の皆さん

4月5日
・町が所有する『軽邑耕作鈔』
と『遺言』が県指定有形文
化財に指定される。
7月
・七戸・十和田・八戸～東京
間を運行する夜行高速バス
シリウス号の軽米インター
停留所への経由を開始。
平成26年
1月11日
・12月に完成した軽米小学校
新校舎の落成式と一般公開
が行われる。
3月31日
・晴山中学校・小軽米中学校・
笹渡小中学校が閉校。笹渡



完成した軽米小学校新校舎

床、壁、柱など町産材を使用し、屋根には太陽光パネルを設置。町の資源をふんだんに活用した。



全ての小中学校で毎日欠かさず行っている給食後の歯みがきが優良校表彰入賞に繋がった

小学校は小軽米小学校と統
合。町内の中学校は軽米中

学校に統合し、中学校は町
内に1校となる。
10月7日
・旧円子児童館を活用した施
設『創年のたまり場』の開
所式が行われる。
12月
・岩手県学校歯科保健優良校
表彰で町内すべての小中学
校が入賞。軽米小学校、軽
米中学校は揃って最優秀賞。
平成27年
3月16日
・二戸消防署軽米分署の落成



町内で3施設目の常設保育園となる晴山保育園

式が行われる。
3月31日
・山内保育園、観音林児童館、
晴高児童館が閉園・閉館を
迎える。
4月1日
・晴山保育園が開園。
6月24日
・軽米町百人委員会を設置。
9月10日
・音更町との姉妹締結30周年
を記念したビールを発売。

絆はここから始まった

音更町開拓の祖 大川宇八郎翁



大川宇八郎翁
(写真提供：音更町)

軽米町が音更町との姉妹町縁組を結ぶきっかけとなった大きな理由に、音更町の開拓の祖と呼ばれる大川宇八郎が当町の出身であったことがあげられます。

大川氏は1855(安政2)年に軽米村に生を受け、実家の造酒業が傾いたことから新天地を求め明治10年に「えぞ」の地に渡り、アイヌの人々との交流を通じて多くの入植者を受け入れたと伝えられます。

昭和35年に下士幌神社に建てられた大川宇八郎顕彰碑には次のように刻まれています。

『翁は安政二年岩手県に生を享け商人として明治十年渡



大川宇八郎顕彰

道十二年、オトフケブトモツケナシ、今の宝来富丘附近に至り「アイヌ」人と交易を始め翌十三年意を決してサツテオトフケ、今の相生附近に入地十勝内陸定住の祖となった。以後来往する人々を扶け自らも農牧業を営み相次ぐ冷水害病虫害にも挫けず堅い決意と不屈の信念を貫き十勝開発の先駆者として功を収めたが特に馬産の改良に遺した功績は大きく開拓者の範として広く讃えられ、昭和十二年當下士幌においてその尊い生涯をとじた。

ここに翁の足跡を辿り碑を建て永く偉徳を顕彰する。』

自分たちの町の成り立ちと大川氏の功績を後世まで伝えたいと、同町の『蒼い風の

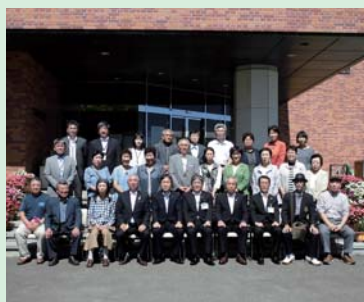
うはちろう

会』では手づくりの紙芝居を作製。軽米町の町立図書館でも特別展が開催されました。



作製された紙芝居の表紙

先人の高い志が結び付けた軽米町と音更町との絆。姉妹町締結から30年が経ち、今後も様々な交流を通じた一層の友好関係が期待されます。



姉妹締結30周年記念の音更町訪問ツアー

軽米町の

花・鳥・木



町の木：いちい

風雪に耐え、樹齢が長く、緑の気品に富むめでたい木である。庭木として赤い実も美しいので用途も広く、「おっこ」の名で親しまれ、当町に多く、特に本県一の名木が沢里にある。

永遠に伸びゆく町づくりにふさわしい。



町の鳥：やまどり

やまどりは、特に町内の山林に数多く生息し、飛ぶ姿も美しく雉にまさる名鳥ともいわれる。昔から歌にも詠まれ、人間とのかかわりあいが深かった鳥である。

この美しい山なみの中で、自然と人との調和を目指す町づくりにふさわしい。



町の花：こぶし

早春いちちはやく香気に満ちて咲く純白な姿は清楚そのもので、多くの人から「大ざくら」、「たねまきざくら」と呼ばれ親しまれてきた。

こぶしの花は、清く明るい町づくりにふさわしい。

